

「ながさきビッグデータ研究会 研究報告 第1報」

ながさき・観光スマートシティ構想

～ビッグデータによる地方創生を目指して～

2015年6月

目次

I. はじめに

II. 構想の背景

III. 構想の目標とねらい

1. 構想の柱

- (1) ICTを活用した観光客の増加 = 「ソーシャル・ビッグデータ収集・発信基盤の整備」
- (2) 観光中心の横連携促進による生活利便性の向上 = 「ID 統合認証連携基盤の整備」
- (3) 地元企業の活性化 = 「アプリ開発のための API とデータベースの整備」

2. 構想の目標像

- 外国人観光客受入環境の整備（ながさき OMOTENASHI コンシェルジュ）
- ながさき観光 ID 連携トラストフレームワークの構築
- ICTを活用したホテル事業支援システムの構築
- ビッグデータ駆動次世代地域資源管理基盤の構築
- スマートフォン向け観光ナビアプリの例

IV. 構想実現に向けての実証試験シナリオ

V. 研究会の実施状況

VI. 参考資料

I. はじめに

「ながさきビッグデータ研究会」は、長崎県異業種連携交流会を中心とした活動であった「ビッグデータ研究会」を長崎全体に広げ具体的なビジネスに発展させることを目的として、長崎総合科学大学新技術創成研究所が中心となり、県内の方々への声かけをして始まった。第1回研究会は、2015年1月27日に長崎総合科学大学で開催された。長崎県内から100名近い参加者があり、その様子がNHKをはじめとする報道各社により放映・報道された。

この研究会の設立当初は、長崎県の中小企業が自社のビジネスにどのようにビッグデータを活用できるか、必要なビッグデータはどのようにすれば手に入れられるか、長崎県の観光の振興のために、国内・海外を問わずメディアやクチコミサイトのランキングにおいて如何にして長崎県を上位にすることができるかなどの課題を解決するため設立した。第一弾として「観光に焦点を当て、ビッグデータを活用した地方創生を実現するにはどうしたらよいか」をメインテーマとし、長崎県内外の活動例を含めて講演という形で話をして頂き、研究を行ってきた。この報告書は、地元で活躍している事業者の声や研究者の提案、中央で活躍している事業者からの提案等を活発な議論を交えながら検討し、取り纏めたものである。

第1回目では、九州大学副学長の安浦寛人教授に、「ビッグデータと新しい社会情報基盤」として、これまでの情報技術の発展とビッグデータの必然性と情報量の異常性について解説して頂き、福岡市でCOI事業として取り組まれている「都市OS」について話をして頂いた。第2回と3回には、大手企業より、都市部で行われている取り組みについてお話し頂くとともに、国の動きや大企業の動きについても示唆を頂いた。また、地元企業による観光活性化へのICTを用いた取り組みについてもご紹介頂いた。第4回では、福岡市ですでに実施されているITSと交通網のビッグデータ活用の取り組みについて紹介頂いた。また、地元研究の紹介として「Linked Open Dataの可能性～長崎大学LODエンドポイント活用による新たなアプリケーション開発」として、トイレ情報のオープンデータ化とそのAPIの公開について紹介があった。このトイレ情報のオープン化については、後日、テレビ局や新聞により大々的に報道された。

この報告書は、ながさきビッグデータ研究会での議論を踏まえ、ビッグデータによる観光活性化が新規雇用を生み出し地方創生につながるよう、皆さんの意見を拝聴しながら、「ながさき・観光スマートシティ構想」として取り纏めたものである。この報告が、長崎市地方創生のため、ひいては長崎県全体の発展のために活用されることを期待する。

2015年6月

ながさきビッグデータ研究会 報告書編集委員
長崎総合科学大学 江藤春日、大山健、菊森淳文、杉原敏夫、田中義人
長崎大学 小林透
東京大学 稲田修一

II. 構想の背景

1. 地方創生と地方版総合戦略

現在、「地方創生」を目指して、「地方版総合戦略」が全国の市町村で策定されている。地方創生の基本目標は、地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服するために、魅力あふれる地方を創生し、地方への人の流れを作ることである。そして、地方版総合戦略は、前提として「人口ビジョン」を策定し、「しごと」「ひと」「まち」の創生の政策パッケージを「策定・実施・検証・改善(PDCA)」することで、KPI(重要業績評価指標)の設定が求められる。

2. 総合戦略におけるデータの重要性

総合戦略の策定・実施・検証・改善を支えるツールとして「データ」の重要性があげられる。「人口ビジョン」の策定には人口の将来像を描くシミュレーション技術が求められる。地域マクロデータを用いた地域経済産業分析が必要となり、国も「地域経済分析システム」を公開している。これらのデータやシミュレーションを基礎として、KPI が設定され、検証が求められることになり、政策評価の精度をあげることになる。

3. ICT 等の利活用による地域活性化

総合戦略には、「地域経済・社会の活性化」や「地域の課題解決」を目的として、地域におけるICT(情報通信技術)の普及展開(=地域情報化)が求められている。すなわち、①ネットワークの整備、②ICT 利活用の促進、③人的基盤の充実を三つの柱とする地域情報化を一体的に推進することである。

このうち、②ICT 利活用の促進について、医療・観光・行政・教育・防災など幅広い分野での展開が考えられる。例えば、A. 地方における定住・移住を増やすこと(定住人口の拡大)については、テレワークを中核としたICT 利活用(テレワークで、いつでもどこでも働ける、生活に直結するサービスも遠隔で確保されるなど)が進められている。また、B. 地方への訪問者を増やす(交流人口の拡大)については、Wi-Fi で補完する便利な ICT 基盤(地方の情報が、スマホ等で、多言語で収集できる、訪問先での災害時も、情報がしっかり入ってくるなど)が形成されつつある。

4. 長崎県における地域情報化の必要性

このような国・地方の総合戦略を踏まえて、長崎県の定住人口・交流人口を拡大し、「しごと」「まち」「ひと」を創生するための「地域情報化」が求められる。長崎県は、高齢化に伴う、医療・福祉分野での ICT、国内外の観光客が増加していることから観光 ICT の戦略的対応が喫緊の課題となっている。「ビッグデータ研究会」に期待されるところは大きい。

III. 構想の目標とねらい

1. 構想の柱

(1) ICT を活用した観光客の増加 = 「ソーシャル・ビッグデータ収集・発信基盤の整備」

観光客に魅力的な無料公衆無線 LAN、ICT を活用し利便性の高い多言語化された観光案内、外国人観光客にも分かり易い交通網、飲食店、商店街、観光施設等を実現するための基盤整備を行うことで、長崎を訪れる観光客の増加を目指す。

(2) 観光中心の横連携促進による生活利便性の向上 = 「ID 統合認証連携基盤の整備」

観光客向けの収集・発信基盤を ID 統合認証可能にすることで、地域生活のためのソーシャルデータとして利活用し、観光客だけではなく長崎市民の生活利便性を向上させることを目指す。

(3) 地元企業の活性化 = 「アプリ開発のための API とデータベースの整備」

ソーシャル・ビッグデータの利活用したアプリ開発を促進するため、長崎独自のデータベースを整備し、ソフトウェア開発のための API を長崎市企業に対して無償で開放すると共に、このビジネスモデルの他地域への展開も可能にする。その結果、長崎市への企業誘致を促進するとともに、地元企業のビジネス活性化を目指す。

2. 構想のねらい

(1) ソーシャル・ビッグデータ収集・発信基盤の整備

観光客を増やすためには、地域自身が地域の魅力を発信することも重要であるが、観光客自身が発信する SNS などへの投稿の効果は絶大なものがある。国内において先に外国人でブームが起こり、それを知った日本人が訪れるようになった観光地も少なくない。そのためには、これまでも言われてきているがなかなか実現しない、海外からの観光客がストレスなく利用できるスマホからのインターネット接続環境の整備が重要である。海外観光客のスマホからでも容易に利用できるインターネット接続環境があれば、インターネット上の市内の観光などの情報をリアルタイムで得ることができ、観光客の充実した市内での周遊の手助けができるとともに、来訪者自身が市内の訪問先から SNS で魅力を発信してくれる自然の PR 効果が期待できる。

現状の、インターネット接続環境を見てみると、長崎市内の Wi-Fi インフラは意外に多いが、運営事業者ごとに展開されていて、接続の ID を持っていない外来の観光客にとっては無いに等しい。また、空港、JR、バス、路面電車、タクシー乗り場等などの観光客が最初に訪れる交通結節点での Wi-Fi インフラの設置は、非常に遅れている。飲食店や商店での Wi-Fi インフラも整備されつつあるが、直接販売促進に使われるシステムが整備されていない。

この整備では、Wi-Fi インフラや携帯電話キャリアを使い、統合的なリアルタイム・ソーシャル・ビッグデータを収集する基盤の整備を行う。また、この基盤を活用すれば、国内や海外からの観光客の動線情報の収集が可能となり、観光客へのリアルタイムな観光案内、ナビゲーションの発信も可能となる。

(2) ID 統合認証連携基盤の整備

観光庁の ICT 活用による観光振興ガイドによれば、観光行動はマーケティング理論のひとつである「AISCEAS(アイセス)」モデルで説明できる。「AISCEAS」は、Acknowledge(知る)、Interest(関心をもつ)、Search(調べる)、Compare(比較する)、Examine(検討する)、Action(行動する)、Share(共有する)の頭文字をとったもので、サービスの一体化が重要な要素となる。旅行前、旅行中、旅行後に利用される代表的なサービスには、下記のようなものがありこれらにアクセスするための統合認証を実現する。

- ◆ 旅行を計画する方が観光情報を収集するウェブサイト
- ◆ 観光情報を交換したり、旅行体験を共有できるソーシャルメディア
- ◆ ドライブ旅行中に目的地までの行き方や周辺の観光情報を収集するカーナビゲーション
- ◆ 旅行中に情報を収集するデジタルサイネージ
- ◆ 主に旅行中に情報を収集するモバイル観光案内サービス
- ◆ 旅行中に簡易にクレジットカードで決済できるモバイル決済
- ◆ 旅行を計画する方が情報を収集する窓口となるポータルサイト
- ◆ 観光情報を交換したり、旅行体験を共有できる海外のソーシャルメディア

統合認証を Wi-Fi 利用だけにとどめず、これらの観光サービスや市内交通機関、観光施設、店舗、飲食店の利用にまで拡張することで、観光客の滞在中のアクティビティのビッグデータ化が可能になり、レストランや店舗等の情報と合わせて、よりきめ細かいサービスの提供が可能となる。

(3) アプリ開発のための API とデータベースの整備

長崎市を中心として長崎県や国立研究機関、長崎大学、長崎総合科学大学と協力しながら、観光・防災情報のオープンデータ化とソーシャル・ビッグデータ連携を進め、地元企業がビジネスとして活用可能な API を提供する。

また、既に RESAS などを通じて提供されているデータベースや事業者により実施されているサービスとの融合もはかりながら、長崎 API (NAPI)としてグローバルスタンダード化を目指す。

3. 構想の目標像

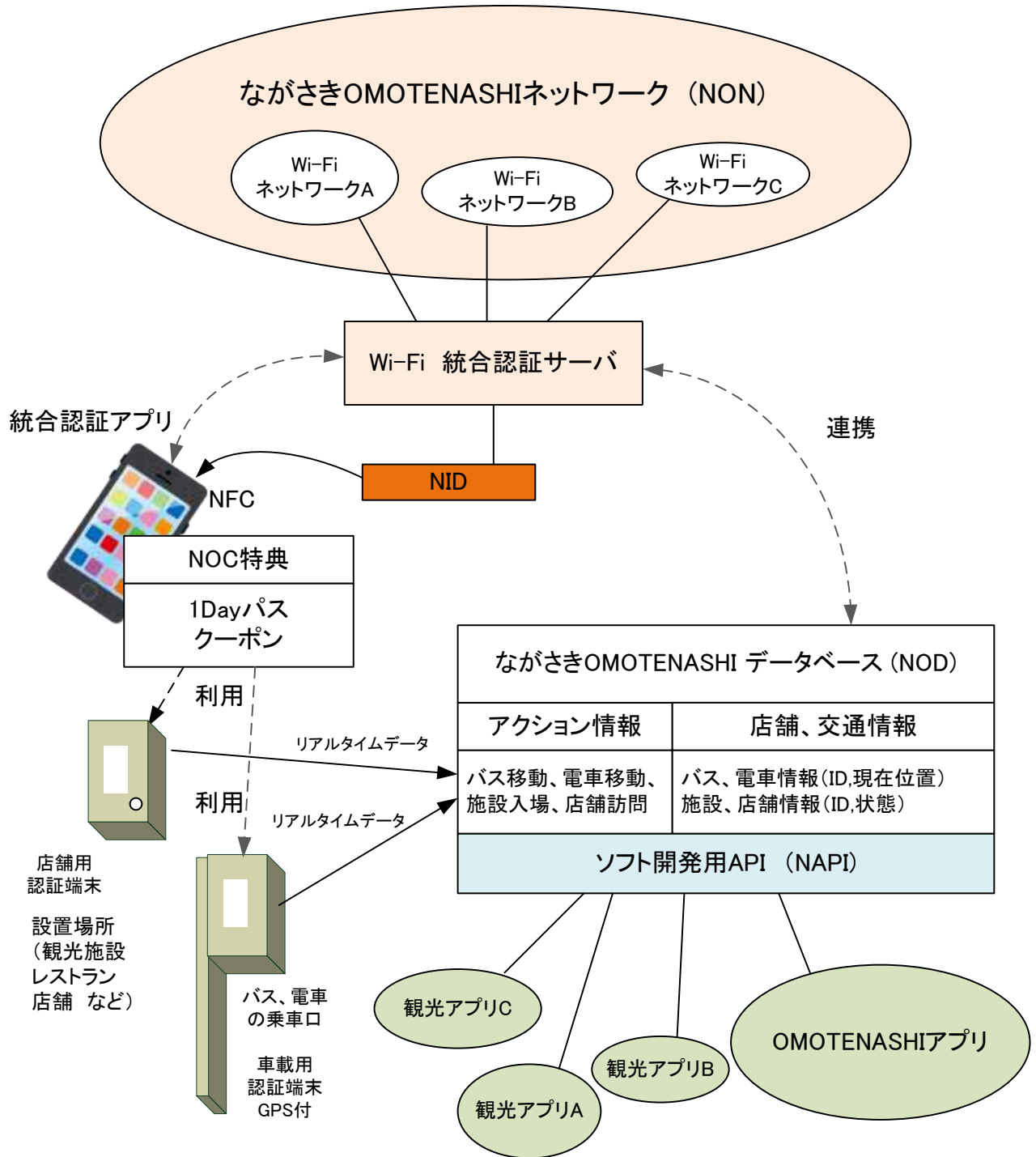
■ 外国人観光客受入環境の整備（ながさき OMOTENASHI コンシェルジュ – NOC）

長崎市内の Wi-Fi スポットを長崎 ID (NID) により統合認証することで、バスや電車などの交通網の情報、施設入場や店舗訪問などのアクション情報、観光客の現在地や店舗情報を収集できるネットワーク「ながさき OMOTENASHI ネットワーク (NON)」のための ICT 基盤を構築する。また、それらのビッグデータを保存し、リアルタイムに活用できるデータベース「ながさき OMOTENASHI データベース (NOD)」を構築する。Wi-Fi スポットの統合認証構築に際しては、観光庁を中心に進められている無料公衆無線 LAN 整備促進協議会の検討事項を考慮し、これらに準拠したネットワークにも接続できる仕組みとする。また、情報のリアルタイム性を確保しながら、サービスを提供するため、交通機関の乗車口や店舗入口にはスマートカードと同じような非接触式認証端末を設置する。現在、車載用と店舗用の 2 種類の認証端末を考えているが、必要であれば増やすこともできる。車載用端末は、現在地情報を付与するための GPS を搭載する。これらの端末は、スマートフォンの共通規格でもある NFC と Wi-Fi で動作するようにする。

このインフラとビッグデータを活用した観光アプリ(コンシェルジュ)は、長崎を初めて訪れる観光客の利便性を飛躍的に高め、観光客への「おもてなし情報」の提供や、観光客自身の情報発信をサポートする。観光客の Wi-Fi へ接続と NOC アプリ導入の促進をはかるため、この統合認証システムを活用する観光客には、公共交通の「1day パス割引」や観光施設や店舗などの「優待クーポン」を付与する特典 (NOC 特典) などを提供する。バスや電車の乗車口に設置する車載用認証端末には、現在置情報を Wi-Fi 転送する仕組みを持たせ、店舗用認証端末には満室やセールス情報などを Wi-Fi 転送する機能を持たせることで、NOD ビッグデータを活用した OMOTENASHI のためのリアルタイムサービスを提供する。

このシステムでは、ビッグデータにアクセスできるソフトウェア開発のためのアプリケーションインターフェース (NAPI) を提供し、地場企業内でのオープンデータ化 (セキュリティは必要) を促進することで、地場企業による様々な観光客支援アプリを持続的に生み出していく。企業の競争原理でコンシェルジュアプリを生み出すことにより、世界に先駆けた魅力的な OMOTENASHI アプリによる外国人観光客の受入体制を整えることができると共に、地場企業の活性化もはかることができる。長崎市に支店をおけば NAPI を利用可能にするなどの仕組みをつくり、企業誘致等もはかっていく。さらに、この NAPI を活用すれば、観光客のみならず市民生活の利便性の向上もはかるアプリの開発も可能になる。

本統合認証とリアルタイム・データベースのインフラは、「ながさき OMOTENASHI コンシェルジュ」のサービスのみならず、本構想におけるすべてのものを実現するための基本インフラとなるものである。



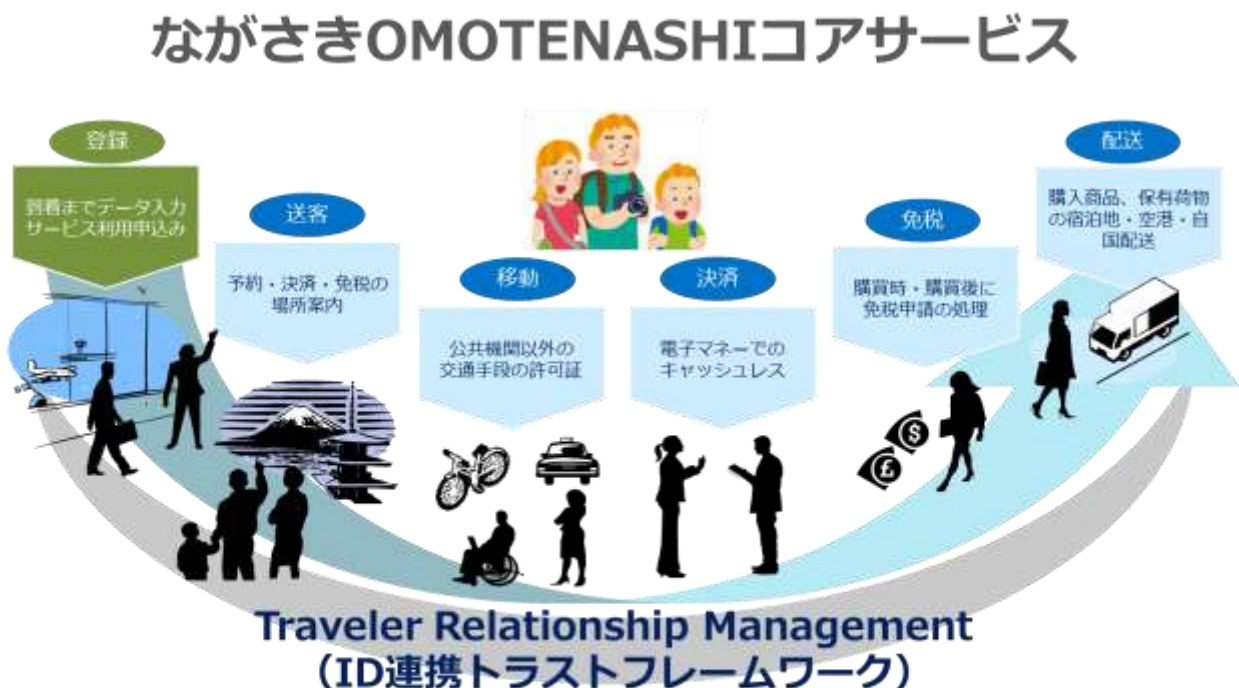
ながさき OMOTENASHI コンシェルジュ (NOC) 構想概念図

■ ながさき観光 ID 連携トラストフレームワークの構築

インターネットサービスの普及により、我々は足を運ばなくても買い物、旅行の予約など様々なサービスを受けられるようになったが、多くのサービスでは利用者登録を行う必要があり、その本人確認のために運転免許証など公的証明書のコピーの送付などの手間を要し、またサービス毎の提出書類も異なるといった煩雑さが残っている。また、利用者は、サービスごとに発行される「ユーザ ID、パスワード」のセットを約 20 保有しているとされており、同じ「ユーザ ID、パスワード」のセットを使いまわす傾向があり、一度漏えいすると、他のサイトでも不正アクセスの恐れがある。

一方、事業者は、本人確認手続き負荷の削減や、利用者の利便性・サービスの向上のため、業種・分野を横断してアイデンティティ情報を連携したいというニーズがある一方で、それぞれごとに取り慣習等が異なることや、連携する事業者が信頼できる事業者かという判断材料がないことから、セキュリティ保護などの状況を確認した上で契約をするといった時間と労力(コスト)がかかっている。

このように、利用者、事業者双方が機会損失をしている状況にあることから、事業者ごとにユーザの登録・認証を別々に行うのではなく、アイデンティティ情報を事業者間で交換しサービス提供できる仕組み「ながさき観光 ID 連携トラストフレームワーク」を構築することで、特に外国人観光客に対して、来日前～入国～来日中～出国～帰国後における業種・分野を問わない一貫した(一元的な)「おもてなしサービス」を実現するものである。



- 旅行者の行動/メリットに密着した食/買い物/移動に関わるパーソナルデータ
- 旅行者側の管理・許諾のもと、事業者横断的に収集、共有、活用
- 新規ビジネスおよび地域の活性化に寄与するためのサービスモデルを開発

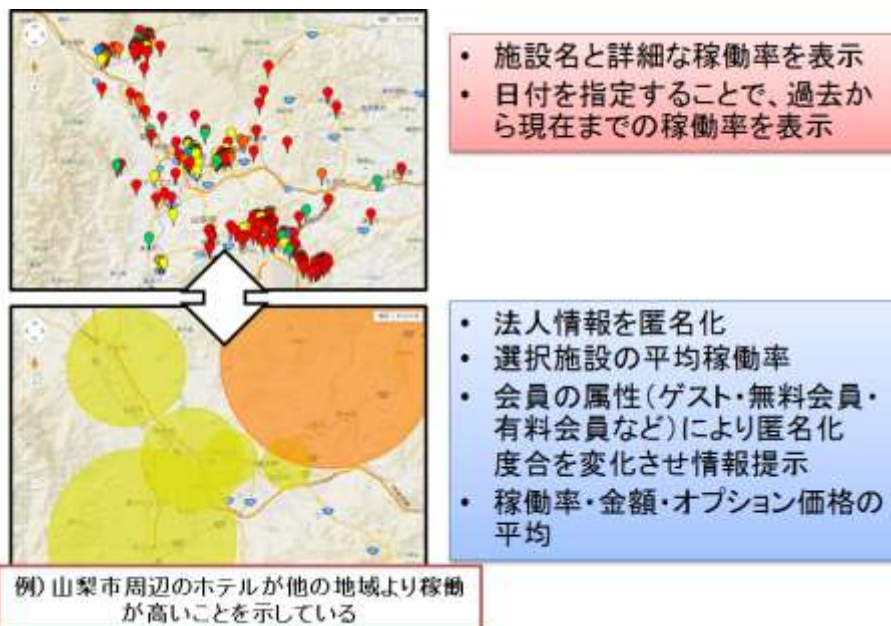
■ ICT を活用したホテル事業支援システムの構築

Web 空間の宿泊施設・公共交通・不動産の予約・販売に関わるソーシャルなビッグデータを収集するシステムを構築する。例えばインバウンドの顧客獲得手段として、各ホテルが Web により宿泊予約状況を公開するケースが多い。そこで、その公開されている宿泊予約状況から実際のホテルの稼働率を推定し、ビッグデータとして蓄積する。



Web 空間の宿泊施設・公共交通・不動産に関するビッグデータ収集システム

本システムにより、リアルタイムでの地域間でのホテル稼働率の違いや、季節変動などの分析が可能となり、宿泊客獲得のための適正価格の設定やイベントの設定などの施策を打つことが可能となる。既に、八ヶ岳観光圏では、研究会関係者により、このシステムの実証実験が行われており、長崎市への導入を目指す。



八ヶ岳観光圏でのリアルタイム観光統計データ提供例

■ ビッグデータ駆動次世代地域資源管理基盤の構築

長崎の強みである2つの世界遺産候補、“明治日本の産業革命遺産”、“長崎の教会群とキリスト教関連遺産”の観光資源化と永続的保護を両立させ、安心・安全な生活環境を提供する「ビッグデータ駆動次世代地域資源管理基盤」を、国立情報学研究所、長崎大学、長崎総合科学大学が協力しながら長崎市を実証フィールドとして構築する。

本基盤では、ネット上から長崎地域の観光関連情報を逐次クロールし収集するとともに、センサネットワークを活用して世界遺産候補の文化遺産遠隔モニタリングのためのセンサ情報を収集する。さらに、国や県、市が持つ各種統計情報、防災関連情報を積み上げる。これにより、多面的かつ重層的なビッグデータ解析を可能とする「観光・世界遺産・防災情報管理基盤」を構築する。

本基盤を活用することにより、以下の効果が見込まれる。

- ・交通網整備や宿泊施設整備など、マクロ的観光政策の立案
- ・観光商品(ホテル、施設入場料等)に関する需要と供給、他地域とのバランスの取れた適性価格立案
- ・観光資源として価値が高く、かつ早急な保護が必要な文化遺産の優先的保護のための投資計画立案
- ・オープンデータ化による観光客、及び潜在的観光客に対する長崎情報のタイムリーなフィードバック
- ・突発的な気象変動や自然災害時に観光客はもとより、地域住民にとっても安心・安全な生活環境の提供



ビッグデータ駆動次世代地域資源管理基盤のイメージ

■ スマートフォン向け観光アプリの例

長崎 OMOTENASHI コンシェルジュとしてのスマートフォン向け観光アプリの代表的機能を下記に示す。APIを公開することで、想定外の機能やサービスも期待できる。

① おすすめ観光コース表示

おすすめ観光コースをリスト表示する。また、選択したコースの移動時間や、観光名所の詳細情報が閲覧できる。

② 周辺検索

現在地から直線距離で近い観光地などをリスト表示する。名称を選択すると観光名所の詳細情報が閲覧できる。

③ 多言語対応

表示言語を日本語・韓国語・英語・中国語(簡・繁)に切り替えて情報を表示できる。

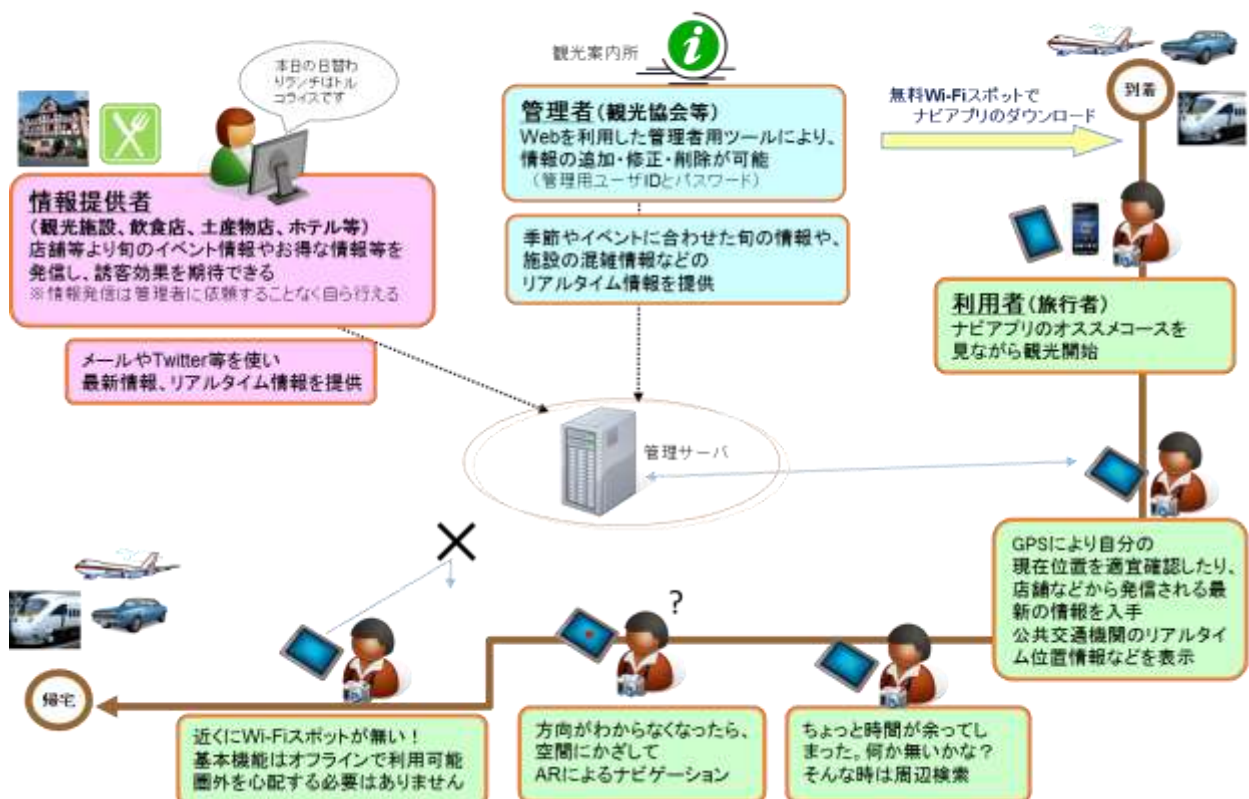
④ 地図表示

イラストの地図でも利用可能で、任意の画像データをナビゲーションの地図として表示できる。現在地や観光コース、周辺施設等を視覚的に把握できる。地図上に公共交通機関の位置や混雑情報などのリアルタイム情報も表示できる。

⑤ AR表示

スマートフォンのカメラを通した風景に情報アイコンを表示し、周辺の位置関係を視覚的に把握できる。スマートデバイスの画面上に写る現実の風景に、画像データや三次元データを合成して表示する事ができ、合成写真として撮影することもできる。

～スマートフォン向け観光ナビアプリ～



IV. 構想実現に向けての実証試験シナリオ

ながさき・観光スマートシティ構想の中核となる「ながさき OMOTENASHI コンシェルジュ」(NOC)を軸として第一期から第三期までの3か年で実証試験を行う。実証試験は長崎市内の場所を選定して行うものとし、第一期で海外観光客支援のNOC基本インフラを整備、第二期でNOCインフラの拡充とサービスの展開を実施する。第三期では対象エリアを拡大してサービス運用を行う。

スケジュール案

項番	事業項目	第一期(1年目)	第二期(2年目)	第三期(3年目)	
	各期の概要	海外観光客支援のNOCインフラの基礎整備	NOCインフラの拡充とサービスの展開	NOCインフラの拡大とサービス本格運用	
A	Wi-Fiスポット統合認証	認証サーバーの構築と携帯端末側認証アプリの開発 プロトタイプによる運用試験	NOC連携Wi-Fiスポットの展開拡大と実運用	実運用	
B	NOCデータベースとAPI	NOCデータベースの構築 APIの開発 試験運用開始	APIの仕様公開 試験運用	実運用	
C	施設、交通向けNID基盤	統合認証端末および基盤運用サービスのモデルの設計	統合認証端末の設置などインフラ整備	インフラ整備の拡大	
D	NOCインフラと既存システムの連携	ビッグデータ駆動次世代地域資源管理基盤の構築との連携インターフェース構築	ビッグデータ駆動次世代地域資源管理基盤との連携の試験運用	実運用	
E	NOC応用アプリ	a	観光支援アプリ開発(第一期)	観光支援アプリ開発(第二期)	
		b		NID連携トラストフレームワークの設計	NID連携トラストフレームワーク環境の構築
		c		NOCインフラを利用したリアルタイムアドバータイジングモデルの設計	NOCインフラを利用したリアルタイムアドバータイジングモデルの構築と試験運用開始
		d		ICTを活用したホテル事業支援システムとの連携設計	ICTを活用したホテル事業支援システムとの連携システム構築

費用計画案

項番	事業項目	第一期(1年目)	第二期(2年目)	第三期(3年目)	
	各期の概要	海外観光客支援のNOC インフラの基礎整備	NOCインフラの拡充とサービ スの展開	NOCインフラの拡大と サービス本格運用	
A	Wi-Fiスポット統合認証	2500万円	500万円	500万円	
B	NOCデータベースとAPI	800万円	200万円	200万円	
C	施設、交通向けNID基盤	600万円	2000万円	2000万円	
D	NOCインフラと既存システ ムの連携	300万円	300万円	200万円	
E	NOC応用アプリ	a	800万円		
		b		400万円	800万円
		c		400万円	800万円
		d		400万円	500万円
	合計	5000万円	5000万円	5000万円	

注) インフラの整備における Wi-Fi スポットのカバーエリアや、認証端末の設置台数は NOC 構想の効果を
確認するために必要な規模で行うものとしている。

V. 研究会の実施状況

第1回

長崎の有志により、「ながさきビッグデータ研究会」を設立する運びとなりました。設立を記念して、ビッグデータ関連での日本の大御所であり、情報関連学会での世界的な権威でもある九州大学理事・副学長の安浦寛人先生に基調講演をお願いいたしました。

また、同時に、長崎での研究事例についてもご紹介します。

みなさまの参加をお待ちしております。

関係する方々への、メールの転送もどうぞよろしくお願いいたします。

参加の方は、grad@nias.ac.jp（陣野）へ返信をお願いいたします。

懇談会(有料)への参加の有無もお知らせください。

発起人 吉田 清規
稲田 修一
江藤 春日
田中 義人

「ながさきビッグデータ研究会」設立シンポジウム

日時:2015年1月27日(火) 16:30~18:20

場所:長崎総合科学大学 情報科学センター201 講義室

開会あいさつ 発起人代表 (株)メモリード

専務取締役 吉田 清規

主催者あいさつ 長崎総合科学大学学長 貴島 勝郎

来賓あいさつ 長崎県工業技術センター所長 馬場 恒明 氏

研究会について 長崎総合科学大学大学院新技術創成研究所

所長 田中義人

16:50~17:35

基調講演

1. 「ビッグデータと新しい社会情報基盤」

九州大学 理事・副学長

システム情報学府情報知能学専攻教授

安浦 寛人 氏

17:35～18:15

研究事例発表

2. 「ビッグデータで活用可能なデータマイニング手法」

長崎総合科学大学 大学院工学研究科
教授 劉 震 氏

3. 「テキストマイニングをもとにした職場意識の把握とその活用事例

ー経営工学へのビッグデータ利用の一つの試みー」
長崎総合科学大学 大学院工学研究科
教授 杉原 敏夫 氏

閉会あいさつ 東京大学先端科学技術研究センター
特任教授 稲田 修一

18:30～ 懇談会(長崎総合科学大学食堂)2000 円

主催:長崎県異業種連携・交流会、長崎総合科学大学

参加者 100 名

第 2 回

「ながさきビッグデータ研究会」は、ビッグデータに関する研究成果や事例などを通じて、長崎県内の中小企業等がビッグデータをビジネスに活用していくための情報収集や専門家等とのネットワークを広げることを目的に設立されました。

今回は、「47都道府県幸福度ランキング」でのデータ分析・ランク付けを担当した日本ユニシス様に講師をお願いいたしました。

みなさまの参加をお待ちしております

『日本ユニシス(株)におけるビッグデータ活用の取り組みについて』

講師 日本ユニシス株式会社

- 日 時: 平成27年2月26日(木) 16:30～18:00
- 場 所: ながさき出島インキュベータD-FLAG 2階会議室
(長崎市出島町1-43)
- 参加費: 無料
- 主 催: ながさきビッグデータ研究会

「47都道府県幸福度ランキング(寺島実郎監修、日本総合研究所編集)」

において、国・自治体のオープンデータを集め、60の指標から日本ユニシス(株)が分析しランク付けを行いました。
各指標を使って、街の特徴を捉え、どこを伸ばすか、改善するか”気づき”により新たな取り組みへの期待が広がります。
分析にあたったシステムの概要と合わせ、当社のビッグデータの利活用について併せてお話しいたします。

参加者 35名

第3回

「ながさきビッグデータ研究会」では、長崎での観光活性化を目指し下記の講演会を開催します。今回は、ソフトバンクモバイル(株)情報企画統括部 統括部長 兼 (株)Agoop 代表取締役 社長である柴山和久氏をお招きし、ビッグデータを活用した長崎での観光ビジネスについて、考えていきたいと思ひます。また、扇精光様より、地元企業の取り組みについてもお話しいただこうと思ひます。

みなさまの参加をお待ちしております。
関係する方々への、メールの転送もどうぞよろしくお願ひいたします。
参加の方は、grad@nias.ac.jp (石丸)へ返信をお願ひいたします。
懇談会(有料)への参加の有無もお知らせください。

世話人 (株)メモリード	吉田 清規
東京大学	稲田 修一
長崎総合科学大学	江藤 春日
	田中 義人

第3回「ながさきビッグデータ研究会」

日時:2015年4月24日(金) 16:30~18:15
場所:長崎総合科学大学 情報科学センター201 講義室

開会あいさつ (株)メモリード 専務取締役 吉田 清規

16:35~17:35

講演

1. 「ビッグデータを活用した地域活性化について

～長崎県の観光施策解析～ 」

ソフトバンクモバイル(株) 情報企画統括部 統括部長

(株)Agoop 代表取締役 社長
柴山 和久 氏

17:35～18:05

地元事業紹介

2.「観光ビジネス活性化に向けた取り組み」

扇精光ソリューション(株)

東 博徳 氏

閉会あいさつ 長崎総合科学大学 田中義人

参加者 60名

第4回

「ながさきビッグデータ研究会」では、長崎での観光活性化を目指し下記の講演会を開催します。今回は、九州IT&ITS推進協議会(QPITS)理事長の浦 正勝 氏をお招きし、ビッグデータを活用した長崎での観光ビジネスについて、考えていきたいと思っております。また、長崎大学小林透教授より、地元での取り組みについてもお話ししていただこうと思っております。

みなさまの参加をお待ちしております。

関係する方々への、メールの転送もどうぞよろしくお願いいたします。

参加の方は、grad@nias.ac.jp (石丸)へ返信をお願いいたします。

世話人 (株)メモリード 吉田 清規
東京大学 稲田 修一
長崎総合科学大学 江藤 春日
田中 義人

第4回「ながさきビッグデータ研究会」

日時:2015年5月18日(月) 16:30～18:15

場所:長崎総合科学大学 情報科学センター201 講義室

開会あいさつ

16:35～17:35

講演

1. 「交通ビッグデータを活用した地域活性化について

～QPITS推進状況をふまえて～ 」

西鉄情報システム ソリューション本部 部長

九州 IT&ITS 推進協議会(QPITS) 理事長

浦 正勝 氏

17:35～18:05

地元紹介

2. 「Linked Open Data の可能性」

～長崎大学 LOD エンドポイント活用による新たなアプリケーション開発～

長崎大学工学研究科 教授 小林 透 氏

閉会あいさつ

参加者 60 名